

昭和57年度 土木学会関西支部の技術賞

関西支部技術賞が昭和57年に制定され、第1回の受賞が発表された。昭和57年度の技術賞候補の募集は昭和57年12月20日に締切られ、応募件数は総合業績5件、分野別業績6件であった。これに対し、選考委員会（p.16参照）において審査の結果、次の5件が受賞業績として選出され、昭和58年5月11日関西支部総会において賞状ならびに賞牌（団体には楯、個人にはメダル）を授与した。

なお、昭和58年度も選考委員が選出され募集が行われるが、詳細は会告にて発表する予定である。

◇浜大津総合ターミナル整備事業に伴うペDESTリアン・デッキの建設—大津市、中央復建コンサルタンツ

浜大津は水陸の交通の要衝として栄えてきたが、従来の無秩序な発展のため、交通の渋滞を余儀なくされていた。浜大津総合ターミナル整備事業はそれらの抜本的解消をはかったものであり、その一環として、総合ターミナルの各施設を結ぶ要のペDESTリアン・デッキが建設され、十分その目的を達した。

本施設は 1)地域のシンボルとしての特徴的デザイン、2)身障者への配慮、3)市民のいこいの場、4)構造設計における経済性など単なる歩行者横断施設でなく、都市施設のシンボルとして位置づけられている。

◇御坊発電所の人工島建設工事—関西電力

御坊発電所は和歌山県御坊市の沖合に来年の夏の運転開始を目指し建設中の我国では初めての人工島方式による火力発電所である。人工島（35万㎡）の建設地点は、直接外洋に面し自然条件が厳しい上、いわゆる“台風銀座”に位置している。このため観測史上最大級の室戸台風のシミュレーションにより設計波高を決定するとともに、施工途上の高波・台風対策を実施した。さらに、水路内蔵ケーソン、ケーソンマウンドの締固め工法、移動式ベルトコンベヤによる連続土工システム等の新技術、新工法を採用し、昭和57年7月わずか2年4ヶ月の短期間で人工島を完成することが出来た。このように、本建設工事は、外洋における洋上エネルギー基地の建設として先駆的な役割を果たすものである。

◇淀川大堰築造第二期工事—熊谷組・大林組建設共同企業体

淀川大堰は、昭和46年3月に改訂された淀川水系工事実施基本計画に基づき、新淀川と旧淀川である大川の分流点に建設された淀川下流における最も重要な河川施設であり、しかも我国最大のロングスパンゲート（スパン長55m）を有している。堰本体は、第1期工事（昭和47年～49年）として右岸側3門の施工を行い第2期工事（昭和54年～57年）として左岸側3門および左岸固定堰の施工を行った。第2期工事の施工場所

は第1期工事と異なり左岸寄りの河道中央部に位置するため、仮設工として周囲全体に2重締切を設置した後深井戸による水替工を実施し、堰柱基礎工、床版工、護岸工等の施工を行った。施工期間中出水による被害や杭打矢板打に伴う騒音振動および掘削土処理に伴う水質汚濁等の公害が発生し、その対策に苦慮したが、工程管理、品質管理および安全管理等に最大限の努力を傾けて、それらを克服し完成したものである。

◇斬新な大断面土圧式シールドの開発と優れた施工管理—伊藤住吉（大林組）



個人受賞の伊藤住吉氏

難しい環境下にある大断面土圧式シールドによるトンネル工事にあたり、斬新な機械の開発と綿密な施工管理、ならびに市民との対話の尊重により、成功裏に完工した。

なお、唯一の個人受賞であり、その喜びを次のように語っている。

「このたび土木学会関西支部の技術賞を受賞いたしました大変有難く名誉に思っております。今回の受賞はもとより個人の業績ではなく工事関係者全員の努力の成果であり私指揮者が代表して受賞した次第です。これを契機としまして、今後益々土木技術の発展に力を注ぎ、受賞者として恥ずかしくないようより一層努力したいと思っております。」

◇ナトムによる第1武田尾トンネル大断面の施工—国鉄大阪工務局、西松建設関西支店

第1武田尾トンネルは福知山線宝塚、篠山口間の複線電化に伴い、新設された別線複線トンネル（566m）である。新しい武田尾駅が第二名塩トンネルと当該トンネルとの間の武庫川上に直交して設置されるため、ホームの一部がトンネル内に入り、起点方124mは幅19mの偏平大断面トンネル（130㎡）となっている。当該トンネルは全長にわたりナトムで施工したが大断面区間についての掘削ならびに覆工コンクリートの施工法に特色がある。

昭和57年度 関西支部技術賞 (団体受賞)



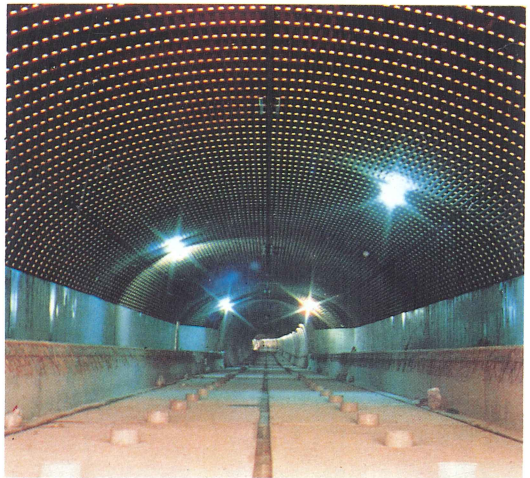
完成した浜大津総合ターミナルペDESTリアンデッキ (デッキ部上屋付立体 ラーメン)



淀川大堰



上空より見た御坊火力発電所人工島



軌道敷設を残すだけとなった福知山線第1武田尾トンネル大断面区間、宝塚方より福知山方を望む

昭和57年度関西支部技術賞選考委員

- | | | | |
|------|-------------------|-------------|-------------|
| 委員 長 | 丹羽義次 (京都大) | | |
| 委員 | 明石外世樹 (立命館大) | 井上龍介 (大阪府) | 片山祐一 (建設技研) |
| | 工藤 哲 (日本橋梁) | 小藪泰明 (大林組) | 佐々木 伸 (大阪市) |
| | 佐佐木 綱 (京都大) | 陣内孝雄 (近畿地建) | 谷本喜一 (神戸大) |
| | 西村昭三 (国 鉄) | 松本忠夫 (阪神高速) | 室田 明 (大阪大) |
| | 山下幸弘 (富士ビー・エス・コン) | 吉川和広 (京都大) | |